Bookstart Newsletter

ブックスタート・ニュースレター

2023 秋 No.82

神奈川県鎌倉市

特　集

2024・2025・2026 年度
「ブックスタート赤ちゃん絵本」が決定

ブックスタートの会場で、絵本に手を伸ばし、読んでくれている人を見上げる赤ちゃん。赤ちゃんと絵本をひらく楽しい「体験」をした保護者が、「やってみたいな」と思った時に、すぐに赤ちゃんとの絵本の時間を持つことができるよう、ブックスタートでは絵本そのものをプレゼントします。各地でプレゼントされる絵本の候補となるのが、30タイトルの「ブックスタート赤ちゃん絵本」です。

NPOブックスタートが主催する「ブックスタート赤ちゃん絵本」の選考は、3年に一度、乳幼児発達の有識者、図書館司書、保育士など、赤ちゃんと絵本の関係について豊富な知識と経験を有する5名の委員によって、公平・中立的な立場で行われます。選考の対象は、日本国内において、おおよそ0~24か月児を対象に、安定的な供給体制のもと出版流通している絵本です。

今年、その選考が行われ、2024年度からの3年間、自治体に提供する30タイトルが決定しました。11回目となった今回の選考では、オンラインでの顔合わせを経て、各委員が20~30タイトルの絵本を推薦。計117の推薦タイトルすべてについてそれぞれが意見を提出し、互いの意見を共有した上で、6月に対面での最終選考を行いました。

P.2へつづく

独立・中立的な「選考会議」

絵本の選考は、「ブックスタート赤ちゃん絵本 選考基準」に基づいて行われます。委員の独立した判断によるもので、出版社や当NPOの意向が反映されることはありません。

●選考基準●

赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わし、気持ちを通わせながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本のうち、次のいずれかにあてはまるものとする。

1 年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。

2 今後、赤ちゃんから支持を受ける可能性が高い絵本。

ブックスタート事業で手渡すことを踏まえた選考

「ブックスタート赤ちゃん絵本」は、事業を行う自治体に生まれた、すべての赤ちゃんとその保護者にプレゼントする絵本の候補となるものです。そのため、事業の趣旨に適っているかという点はもちろん、予算や公平性といった自治体の事業としての観点や、多様な環境に育つ赤ちゃんへの配慮など、自治体や親子の状況も踏まえて30タイトルの選考を行います。

選考のポイント（例）

- 赤ちゃんが興味を持ちやすい内容か。
- 赤ちゃんと家族が楽しくふれあうひとときを持ちやすいか。
- 自治体が事業を実施しやすい価格帯か。
- 出版社や著者の偏りはないか。
- 長年読み継がれている絵本と近年出版され評価の高い絵本について、自治体が選びやすいバランスになっているか。
- 赤ちゃんの様々な状況（家族構成など）に配慮したものが入っているか。
- 絵本のことをよく知らない保護者でも手に取りやすいものが入っているか。

第11回 選考会の様子

2024・2025・2026年度 ブックスタート赤ちゃん絵本

（50音順・年は初版刊行年）

『おせんべ やけたかな』
構成・文：こがようこ
絵：降矢なな
童心社　2018年

『いない いない ばあ』
文：松谷みよ子
絵：瀬川康男
童心社　1967年

『あぶくたった』
構成・絵：さいとうしのぶ
ひさかたチャイルド　2009年

『あっぷっぷ』
文：中川ひろたか
絵：村上康成
ひかりのくに　2003年

『ぎゅう ぎゅう ぎゅう』
文：おーなり由子
絵：はたこうしろう
講談社　2014年

『がちゃ がちゃ どんどん』
作：元永定正
福音館書店　1990年

『がたん ごとん
がたん ごとん』
作：安西水丸
福音館書店　1987年

『かお かお どんなかお
（ミニえほん）』
作：柳原良平
こぐま社　2015年

『おやすみ』
作：中川李枝子
絵：山脇百合子
グランまま社　1986年

『おつきさまこんばんは』
作：林明子
福音館書店　1986年

『ぞうさん』
詩：まど・みちお
絵：にしまきかやこ
こぐま社　2016年

『せん』
作・絵：あらいひろゆき
岩崎書店　2017年

『じゃあじゃあびりびり』
作・絵：まついのりこ
偕成社　1983年

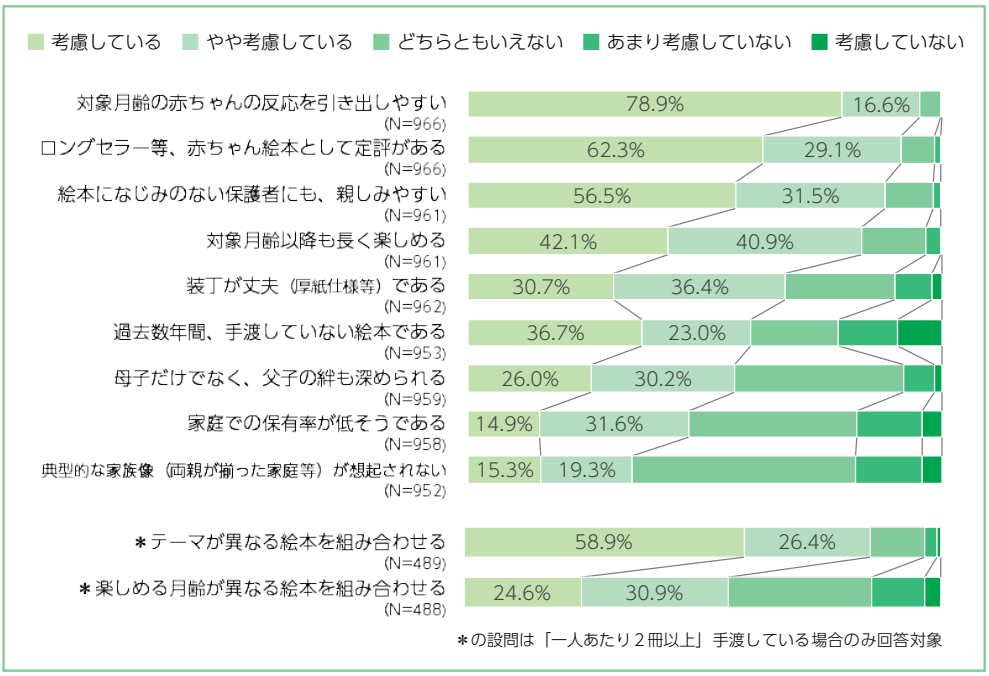
『しーっ』
作・絵：たしろちさと
フレーベル館　2012年

『くっついた』
作・絵：三浦太郎
こぐま社　2005年

『くだもの』
作：平山和子
福音館書店　1981年

自治体における選書の際の考慮点

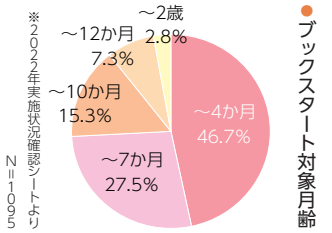
実施自治体アンケート（2019.7）より

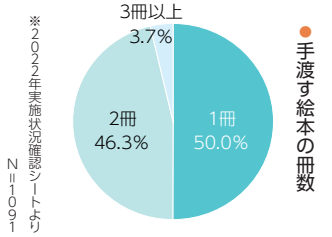


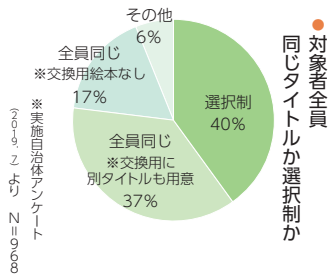
※絵本を選ぶ際は、ぜひ実際に手に取って、赤ちゃんや保護者の気持ちを考えながら読みあい、皆さんの思いがこもった絵本を選んでください。

※ 30 タイトルの絵本を貸し出します。お気軽にお問い合わせください。

自治体の状況







『バナナです』
作：川端誠
文化出版局 1984 年

『のりもの つみき』
作：よねづゆうすけ
講談社 2011 年

『なーんだ なんだ』
作：カズコ G・ストーン
童心社 2004 年

『どんどこ ももんちゃん』
作・絵：とよたかずひこ
童心社 2001 年

『だるまさんが』
作：かがくいひろし
ブロンズ新社 2008 年

『たっちだいすき』
文：聞かせ屋。けいたろう
絵：ひろかわさえこ
アリス館 2018 年

『まる まる』
作：中辻悦子
福音館書店 1998 年

『まる さんかく ぞう』
作：及川賢治・竹内繭子
文溪堂 2008 年

『ぽんぽんポコポコ』
作・絵：長谷川義史
金の星社 2007 年

『ぺんぎんたいそう』
作：齋藤槙
福音館書店 2016 年

『ぴょーん』
作・絵：まつおかたつひで
ポプラ社 2000 年

『はらぺこ あおむし（ボードブック）』
作：エリック・カール
訳：もりひさし
偕成社 1997 年

● 視覚に障害のある対象者用として、市販の点字つき絵本（点字のほか絵の部分もさわれるように隆起印刷が施されるなど工夫が加えられた絵本）を提供します。

『てんじつきさわるえほん じゃあじゃあびりびり』
作・絵：まついのりこ
偕成社 2016 年

『てんじつきさわるえほん いない いない ばあ』
文：松谷みよ子　絵：瀬川康男
童心社 2021 年

『よしよし』
作：三浦太郎
講談社 2008 年

『やさいさん』
作：tupera tupera
Gakken 2010 年

ブックスタートの普及を支える「非営利のしくみ」

出版界の合意による特別な価格と流通

NPOブックスタートは、選出された「ブックスタート赤ちゃん絵本」を、提供出版社に得失のない「非営利支援価格」で、出版取次会社や書店を経由せずに、提供出版社から直接購入し、自治体に「非営利価格」で販売しています。

ブックスタートのためのこの一連の流れを、「非営利のしくみ」と呼んでいます。このしくみは、日本にブックスタートが紹介された2000年の「子ども読書年」の際に、出版界（出版社・出版取次会社・書店）が、この活動を応援することを確認して行った「ブックスタート・パックの絵本提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき、多くの出版関連各社の理解と協力に支えられ、運用されています。

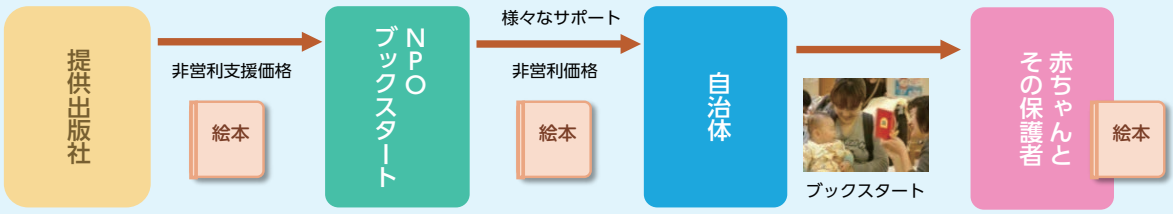
＊しくみの適用範囲は、NPOブックスタートが提供し、かつ「最初のきっかけづくりの機会」で赤ちゃんに手渡される絵本です。それ以外の用途（例：図書館の蔵書、2度目に手渡す絵本など）には適用されません。

しくみの活用が全国の事業の充実に

当NPOは、このしくみによって、絵本などのブックスタート・パックを自治体に提供し、その販売収益により、財政的に自立した組織運営をしています。そしてパックの物流はもとより、各種資料の発行や研修会の開催、多言語や障害のある方へのサポートなど、様々な取り組みを行い、各地の事業を支援しています。自治体に「非営利のしくみ」が活用されることで、全国各地のブックスタート事業の普及と充実が支えられています。

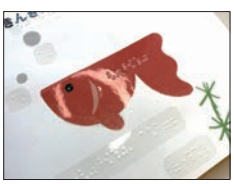
ブックスタート・パック
（絵本・アドバイスブックレット・布製バッグ・自治体作成の資料など）
※内容は自治体によって異なります。

●非営利のしくみ ～「ブックスタート赤ちゃん絵本」が手渡されるまで～

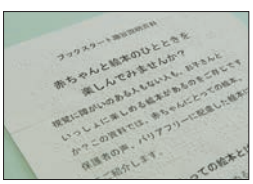


当NPOによる自治体へのサポート例

- 情報提供／問い合わせ・相談対応
- 研修会の開催
- 日本語以外を母語とする対象者への対応
- 障害のある対象者への対応



▲「てんやく絵本」への交換
点字や絵がさわってわかるシートを貼付。写真は『くっついた』（作・絵：三浦太郎 こぐま社）のてんやく絵本



▲「点字／拡大文字対応
ブックスタート趣旨説明資料」の提供
点字と拡大文字で、ブックスタートの趣旨やバリアフリーに配慮した絵本を紹介

▲『多言語対応あいさつポスター』の提供
13言語であいさつとメッセージを記載

▲『多言語対応絵本紹介シート』の提供
9言語とやさしい日本語で絵本の内容を紹介

選考委員から

農中 仁美
公立図書館司書

**手に渡る絵本が
その子の幸せな記憶となりますように**

私たち司書はよくおすすめ絵本リストを作りますが、ブックスタートの絵本の選定には、それとは違った視点が必要だと思いました。行政が配布する以上、できうる限り、受け取り手が残念な気持ちにならないようにするべきだと思うからです。多くの絵本に囲まれている家庭もあるでしょうが、自分のものとして持てる本がこれしかない、という子もいるでしょう。手に渡る絵本がその子の幸せな記憶になることを願って選びました。

（福井県福井市図書館）

Share books with your baby !

（後列左から）圓山哲哉さん・越高一夫さん
（前列左から）安井素子さん・石井光恵さん・農中仁美さん

圓山 哲哉
言語聴覚士・絵本専門士

**どの絵本も親子のやり取りを
豊かに広げてくれます**

ことばやコミュニケーションの発達支援を行う言語聴覚士、また絵本を通した経験の素晴らしさを広める絵本専門士として、選考に関わらせて頂きました。どの絵本もお子さんと保護者の方のやりとりを豊かに広げてくれる作品です。時代の変化と、その中でも普遍的で大切なものに関して、意見交換しながらの選考会議はとても濃密な時間でした。お子さんと保護者の方がshare booksを通して、和やかで幸せな時間を過ごされることを祈っています。

（社会福祉法人日本心身障害児協会 島田療育センター）

石井 光恵
研究者（子どもの成長発達と絵本）

**楽しく遊べて
笑顔になれる絵本を選びました**

「一緒に読むと楽しくなって、笑顔が生まれる絵本」をコンセプトに、選考を進めました。赤ちゃんへの語りかけを豊かにする、心地よいリズムや響きのある言葉の絵本。生き生きと描かれた絵で、色や形を十分に楽しめる絵本。赤ちゃんの生活に密着した、ふれあいあふれるテーマの絵本。そして、赤ちゃんと一緒に遊べる絵本かどうかにも着目しました。赤ちゃんにとって遊びは心身ともに重要なものです。絵本で、赤ちゃんと楽しく遊んで、笑顔に……と願っています。

（日本女子大学 名誉教授）

安井 素子
保育士

**読んでくれた人の声とぬくもりの記憶が
生きる力に**

長年、子どもたちに絵本を読んできて、絵本の嫌いな子に会ったことがありません。子どもたちが絵本のおもしろさをいつも私に教えてくれます。理屈も理由もいりません。ただ、一緒にページをめくる。お父さんやお母さんの声とそのひざのぬくもりが絵本の絵とともに、まるごと子どもたちの記憶に残ったら、それはきっと生きていく力になると信じています。ブックタートの 1 冊をきっかけに、たくさんの絵本に出会ってくれたらうれしい。

（社会福祉法人太陽 あしたがすき保育園 園長）

越高 一夫
児童書専門店

**自治体が選びやすいよう
バランスを意識しました**

今回の選考に当たっては、多様なテーマで描かれている赤ちゃん絵本を「のりもの」「どうぶつ」「生きもの」「ふれあいあそび」「わらべうた」などのカテゴリーで分け、その中から数冊ずつ選ぶことを心がけました。長く読み継がれている絵本を基本にし、そこに新しい絵本を組み合わせていくことでバランスをとり、各委員の声が反映された 30 冊を選ぶことが出来ました！親子で楽しめる絵本ばかりなので、ことばを介して幸せの輪が広がることを願っています。

（児童書専門店「ちいさいおうち書店」店主）

◀◀◀ 次のページでは選考会の様子をご紹介します！

会議の様子

顔合わせ

（オンライン／2月）

各委員の専門分野と絵本との関わり、ブックスタート事業に関する意見交換などを行いました。

当日出た意見

●ブックスタート事業を始めた当初、一番気を付けたのは、絵本を渡すことで保護者にプレッシャーを与えないようにすることです。

●保育士の養成学校の授業で絵本を持ってきてもらうと、読んでくれた人のこともまるごと思い出として大事にしている学生が増えているように感じます。

最終選考

（東京にて／6月）

ブックスタート会場、保育園、おはなし会など、各委員が様々な現場で赤ちゃんと楽しんでいる絵本について、それぞれの経験を持ち寄り、絵本を読みあいながら、活発な議論を行いました。また、多様な専門性や知識をもとに、赤ちゃんの発達に適した絵本について意見を交換。事業を行う自治体の実情や保護者のニーズも確認しながら選書を進めていきました。
どのような視点で何を話し合ったか、その一部を紹介します!

意見交換

（紙上／3～5月）

・各委員が 20 ～ 30 タイトルの絵本を推薦
・計 117 タイトルを委員それぞれが手に取って意見を提出
・互いの意見を共有

赤ちゃんの視点から

●赤ちゃんにとって心地よいもの、楽しいもの、好きなものなど、赤ちゃんの心に残る体験となるような絵本を選びたい。

●歌うことは身体全体で声の運動をすること。わらべうたの絵本は親子で一緒に歌いながら楽しめる。

Tetsuya Maruyama

圓山 哲哉 さん
小児領域の言語聴覚士として、日々親子と関わっている。

●コロナ禍では、子どもたちが身体のふれあいを体験することさえ難しかった。だからこそ、家庭でのふれあいの楽しさを伝える絵本を届けたい。

Kazuo Koshitaka

越高 一夫 さん
児童書専門店店主の傍ら、読書アドバイザーとして講師も務める。

●ブックスタートで手渡す絵本が、その子の最初の1冊となる可能性もある。一生大事にしてもらえるような絵本を手渡したい。

●子どもたちは、見事に成長する生き物や植物への憧れとともに、それらが描かれている絵本を楽しんでいる。

●赤ちゃん自ら手を出して触ろうとするような、能動性を引き出す絵本は、言語やコミュニケーション能力の発達も促す。

保護者の視点から

Mitsue Ishii

石井 光恵 さん
子どもの成長発達と児童文化の視点を軸に、幅広く絵本を研究。

●絵本を介してふれあうことで、理屈抜きで我が子を愛しいと思ってもらえるような絵本を選びたい。

●いないいないばあ、にらめっこなどの遊びや、「しーっ」という動作が入っているような絵本は、子どもが飽きずに楽しめるので、保護者も嬉しいと思う。

●家に本棚がある家庭が少なくなっていて、誰もが知っていると思われる絵本を知らない保護者に出会うこともある。長く読み継がれている絵本も推薦したい。

自治体の視点から

●自治体が選びやすいように、「ふれあい」「食べもの」「わらべうた」など、カテゴリーのバランスに偏りが出ないようにしたい。

●家族構成やアレルギーなど、赤ちゃんの状況は様々。自治体としては、家族像や食べ物が限定されていない方が渡しやすい。

Hitomi Nounaka

農中 仁美 さん
ブックスタートの担当者として、予算の確保、選書等に携わる。司書歴 30 年以上。

●自治体の予算は年々厳しくなっている。一定の価格帯のものしか購入できない自治体もあるので、価格には十分配慮したい。

Motoko Yasui

安井 素子 さん
保育士歴 40 年以上の経験を活かし、雑誌等で絵本に関する記事を執筆。

●しかけ絵本は、子どもとの関わりが苦手な保護者や話を聞くのが苦手な子どもが絵本に興味を持つきっかけになり得る。一方、絵本とおもちゃの境界線をどう捉えるか、しかけの内容や仕様が手渡す絵本として適切かなど、考えなければいけないことも多いだろう。

ブックスタートでのひとコマ

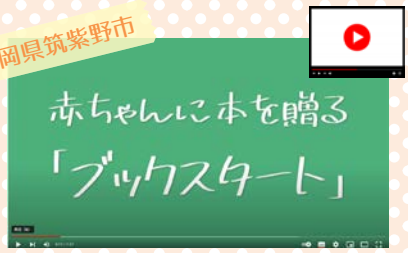
ほっとPHOTO

富山県高岡市

＼新聞記事にもなりました／

▲中国江蘇省出身で 1 歳の男の子のママが、ボランティアの新メンバーに。NPO ブックスタート「よみもの」で詳細をご覧いただけます。→→→

福岡県筑紫野市



▼ブックスタートの PR 動画を作成▼

▼▼▼

▼▼▼

▲赤ちゃんのかわいい表情やボランティアさんのあたたかな言葉が、1 分 30 秒にぎゅっとつまっています。筑紫野市 YouTube チャンネルで公開中→→→

長崎県時津町

▲表紙をじーっ。赤ちゃんの愛らしい姿を、お母さんが笑顔でみつめます。

NPO ブックスタート

▲鳥取県図書館大会特別分科会［本の学校文化祭］に参加し、「ブックスタートの 23 年」をテーマにお話ししました。

千葉県成田市

▲ 4 月から事業開始。赤ちゃん 一人ひとりに読みきかせをし、絵本を手渡します。

ことのは

NPO ブックスタートのスタッフが出合った言葉

あのころの、三歳の息子と、一歳の娘に会いたい。
そんな未来の目で、眠っている子どもたちを見ると、胸がいっぱいになる。

『父と子の絆』（島田潤一郎　アルテスパブリッシング）より

出版社を営み、育児と仕事で大忙しの日々を送る島田さん。ようやく寝かしつけまで終えてふと、この忙しい育児が早く終わってほしいと思う一方、いつか自分が歳をとっても、いちばん愛おしく思い出すのは間違いなくいまの生活だ、という確信もあるといいます。3 児を育てる私にも、あぁ、もう無理！と叫びたくなる瞬間がありますが、ときどき立ち止まって、子どもとのかけがえのない今を「味わう」ことを大切にしたいと感じた一節です。

Information

全国研修会 2023［オンライン］

日時：
10 月 20 日（金）13:30 ～ 16:00

① 講演「子どもの声を聴く」
小澤いぶきさん
（児童精神科医／こども家庭庁ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ認定 NPO 法人 PIECES 代表理事）

② 報告　NPOブックスタート

③ 事例発表
・神奈川県藤沢市
・愛知県尾張旭市

▼詳細はこちらへ